

園だより



ひなぎく

令和3年6月30日

育ちと学び

園長 渡邊 博典

梅雨空が続く中、時折見せる太陽の日差しが夏を感じさせる季節となりました。東京都などの緊急事態宣言は解除されましたが、依然として続く新型コロナウイルス感染症対策とこれから心配される熱中症への対策を施しながら今後は過ごさなければなりません。子どもたちのストレスを解消できるよう配慮していきたいと思えます。

先日、市内の小学校と幼稚園、保育園の代表者による研修会があり、「子どもの育ちと学びをつなぐ」というテーマのもと、講師の方から貴重なお話が聞けましたので、その一部を紹介します。

遊びや生活を中心とした幼児期の学びは、教科を中心とした児童期（小学校）の学びの土台となる。幼児期により生活習慣を身に付けることができると、子どもにとってその後の学校生活の中で、過ごしやすい毎日を送ることができる。小学校と園との連携が重視されるようになったのは、小1プロブレム（小学1年生の児童が学校生活に適應できないために起こす問題行動）が顕著になったからである。現在の小学校では、生活科を中心としたスタートカリキュラムが実施されるようになり、小1の段階でこのプログラムを受けた児童と受けていない児童の学力に有意な差が生まれている研究結果も示された。いかに幼児から児童の移行期における習慣や経験が大切であるかという検証である。その基盤として、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が幼稚園要領や指針には次のように示されている。

ア 健康な心と体、イ 自立心、ウ 協同性、エ 道徳性・規範意識の芽生え、オ 社会生活との関わり
カ 思考力の芽生え、キ 自然との関わり・生命尊重、ク 数量・図形、文字等への関心・感覚
ケ 言葉による伝え合い、コ 豊かな感性と表現

家庭や園においては、このような子どもの姿を念頭に日頃から教育にあたらなければならないと思えます。子どもの成長は、十人十色、本園では子どもの自立心を育て、興味・関心にどのようにアプローチするかが指導者の役割と考え、今後も日々の教育実践を重ねてまいります。

【連絡】

船橋警察署からの依頼で、夏の交通安全運動の横断幕に本園年長児による手形等の装飾をすることになり、7月1日に園内で警察への作品贈呈式や記念写真撮影、交通安全講話などが実施されます。さらに7月9日、各クラスの代表園児5名が交通安全セレモニーに参加します。子どもたちにとって交通安全をしっかりと認識する貴重な体験となることを期待しています。いずれも報道関係者が入るかもしれないので、写真等を辞退したい場合は、担任までお知らせください。